opusdei.org

属人区長の書簡 (2014年11月)

属人区長は、手紙でキリストの王国について話し、キリストは"私たちの言葉、仕事や行いの王になるようお望みなのです"。

2014/11/09

愛する皆さん、イエスが私の娘たち と息子たちをお守りくださいますよ うに!

繰り返しになると思いますが、敢え て述べることにします。毎日、多く の善をお与え下さる神にどれほど感謝しなければならないことでしょう。天の父がどのように私たちを祝福しておられるかを考えると、創立者が度々、semper in lætitia! いつも喜びのうちに!と書き、言っておられたことがよく分かります。

9月27日からの数週間、福者アルバ 口の取り次ぎで、神から多くの恩恵 を頂いてきたことを知っています。 教会の子どもたちのある人の聖性 を、教会が公に認める時、聖性その ものが輝かしいことを一度ならず体 験しています。私たちは時々、聖性 を認めません。神の介入に気付か ず、またそれを考えようとしないか らです。子どもたちよ、移り変わる 歴史の中で、信仰こそは、揺ぎ無い 歩みの支えであることを確信しま しょう。神はみ摂理によって、イエ ス・キリストがこの世に設立された神 の王国の完成に向けて、全てのこと を導いておられるのです。

イエス・キリストが、ご自身の命と 死、復活と昇天によって実現さ、今によって実りをいた。 償いの有り余るほどの実りを、今 私たちが、キリスト信者に思い日常をいればなければなければを、主を もし、主を受ける時と状況を、主機会としてあるように、 すること」ができるように、神においています。

 え立たせ、私たちの霊魂内の主の御働きに邪魔する障害を取り除きつつ、全ての人に聖霊を送ってくださるようお願いすることです。

この熱意を単なる夢想のままで終わ らせてはなりません。創立者がオプ ス・デイ創立当初から心に秘めてお られ、ドン・アルバロが私たちに繰 り返された「キリストが支配されま すように | を、まったく個人的な方 法で自分のものにしなければなりま せん。ドン・アルバロはオプス・デ イと出会ったときから、聖ホセマリ アの深く豊かな内的生活に入り込 み、創立者の口に、度々上っていた 射祷Regnáre Christum vólumus!; Deo omnis glória!; Omnes cum Petro ad Iesum per Maríam! を味わ い愛していました。この明白で厳し い行動規範によって、福者アルバロ は、心をキリストに明け渡すべきこ とを確信し、全ての栄光を神に捧 げ、聖母の執り成しを通して教会と

教皇に一致し、全人類に同伴してい ました。

これは、今月の王であるキリストの 祭日を準備するのに最も相応しい考 察です。創立者が私たち一人ひとり に問いかけます。「王はどこにおら れますか。聖霊が私たちの心に形づ くろうとするキリストはどこにおら れるのでしょうか。神から遠ざかる もとになる傲慢な心にも、私たちを 孤立させるもとになる愛徳の不足し たところにも、キリストはおいでに なりません。そのようなところに は、孤独な人間がいるのみで、キリ ストはおいでにならないのです。| [2]神は何よりも私たちの考え、言 葉、仕事や行いの王になるようお望 みなのです。「しかし、一創立者は 続けます一どのようにしてお前を支 配させるつもりなのかと、おたずね になるとすればどう答えましょう か。私なら次のように答えるでしょ う。キリストの支配を実現させるた

めには、豊かな恩恵が必要です、 と。恩恵の助けがあればこそ、最後 の鼓動、臨終の時の一息、ぼんやり とした視線、ありふれたことば、最 も人間的な感情に至るまで、王たる キリストに対するホザンナに変える ことができるのです。」[3]

主の祈りを唱えるとき、advéniat regnum tuum[4] み国が来ますよう に、と神の国の到来を願います。神 の国の存在はこの世で既に明白に なっているとは言えーregnum Dei intra vos est[5], 神の国はあなた方 の間にある一、未だそれは完成途上 にあります。主の言葉によると、神 の国は、畑に蒔かれて根も無く成長 する種のような働きをします。たと え、敵が蒔いた毒麦も一緒に育つと しても、美味しいパンの原料の小麦 粉になる麦の種です。このたとえ話 で、イエス・キリストは、現代も含 むあらゆる時代に当てはまる神の国 の特徴を説明されます。神の国はこ

の世のものではなく[6]、鳴り物入りで表明されるものでもないからです。しかしこの世にありながら、その完成は世の終わりに栄光に包まれる時まで、発展して行くものなのです。

「キリストの働きはいつも静かに行

われます。教会であるということ、 日々福音に生きるという謙遜の中 で、真実へのいのちの大木が育ちま す。このような謙虚な始まりによっ て、主は、今日の教会の謙虚さの中 で、また、私たちキリスト者のあわ れな生活の中で、主の存在を見るこ とができます。このようにして私た ちは、主に出会い、真の平和と命の 力を頂き、この世に主の愛を広める ため、勇気を持って出掛けるよう励 ましておられます。| [7] 歴史の中 で反対のことを暗示するような出来 事が後を絶たないとしても、どれも 救霊の計画を実現したい神がお許し になっていることです。神は「愛ゆ

イエス・キリストは、受肉と十字架上の勝利によって宇宙の王です[9]。この祭日の序唱がこの王国の特徴をいくらか垣間見せてくれます。「真理と命の王国、聖なる恩恵の王国、正義と愛と平和の王国」[10]。聖霊の働きに素直であれば、これらの表現からキリストの勝利の様々な側面を読み取ることができるでしょう。人々が聖霊の働きに素直

なら、これらの表現はこの祭日の準備に役立つでしょう。その日、私たちは、憐れみ深いイエスの聖心へのオプス・デイの奉献を更新します。

真理と命の王国。イエスはピラトに それをこう説明なさいました。「わ たしが王だとはあなたが言っている ことです。わたしは真理について証 しをするために生まれ、そのために この世に来た。真理に属する人は 皆、わたしの声を聞く。| [11] ローマの総督はイエスの言葉に耳を 貸そうとしません。神なる師に背を 向け無愛想にQuid est véritas?[1 2] 真理とは何か、と尋ねます。現 代も多くのところで同じことが起 こっています。悲しむべきことに 「真理」を拒絶する人が後を絶ちま せん。キリストだけが真の「道、真 理、命| [13] であることを認めた くないのです。そして罪の暗闇に留 まります。

人に起こりうる最も大きな悪を償う ようにしましょう。真理であり命で あるキリストに自らを閉ざすと、心 は悪で固まり、癒してくれる慰め主 の恩恵の働きを邪魔してしまいま す。教皇聖ヨハネ・パウロ二世が説明 しておられます。聖霊の行動は「人 間の内部において内的障害に遭遇し ます。いわば見通すことのできない 良心の状態、ある程度自由な選択で 固められた魂の態度に遭遇するので す。(・・・) 現代では、このような精 神と心の態度には、おそらく罪意識 の喪失が反映しているようです。 (·・・) 確かにこの喪失は、『神意識 の喪失』とともに生じるもので す。| [14]

それと同時に神の力は罪の引力よりも無限に強いことを確信し、個人的な気落ちや神を忘れ神の掟をさげすむ、あまりにもひどい環境に、わずかなりとも譲歩することのないようにしましょう。この軽薄な風潮に影

響されることのないよう三位一体に お願いし、罪の仮面を脱ぎ捨て、痛 悔の心を持つことを人々に広めるた め、より熱心に聖霊の力を頼りにし ましょう。聖霊は、主が「罪につい て、義について、また、裁きについ て、世の誤りを明らかにする| [1] 5]とお教えになりました。信仰に よって私たちは「神が御子を世に遣 わされたのは、世を裁くためではな く、御子によって世が救われるため である」[16] ことを確信していま す。 | 罪について、また義について 世の誤りを明らかにすることは、世 の救い、人間の救いを目指すもので す。| [17]

聖ホセマリアは、障害を乗り越えて キリストの王国建設に協力するため のふさわしい方法を教えてくれまし た。「皆が、この世の生活と教会に は困難があることを承知していま す。困難ゆえに私たちは一皆一、よ り良く振る舞い、より忠実であろう

と望みます。不忠実がまかり通って いる昨今、主は、あなた方一人ひと りと私に、忠誠と愛を期待しておら れます。私たちは落ち着いていなけ ればなりません。泥水をかき混ぜた 後そのまま静かに置いておくと泥は 沈み、飲めるほどの上澄みを取るこ とができます。山々に取り囲まれ、 地平線がさえぎられているように思 えても、山々は沈んで行くでしょ う。Montes sicut cera fluxérunt a fácie Dómini山々は蝋のように溶け る、主のみ前に(詩編97,5)、と、聖 書にあります。山々も蝋でできてい るかのように、神のみ旨を前にする と崩れ去ってしまいます。神のみ旨 は、愛と憐れみだからです。 Misericórdia Dómini plena est terra 地は主の慈しみに満ちている(詩編 33.5)のです。主は、あなた方一人ひ とりを、そして私を深く愛しておら れますが、苦悩の絶えない母なる主 の教会をもっともっと愛するようお 望みです。」[18]

聖性と恩恵の王国。これも神の王国 の特徴ですが、真理と命であられる キリストとの一致によってもたらさ れます。洗礼における聖霊の働きに よってキリスト信者は神の子どもに なり、他の秘蹟一特にご聖体一にお いてイエス・キリストとの一致がま すます深まっていき、聖パウロと共 にこう言えるまでになります。「生 きているのは、もはやわたしではあ りません。キリストがわたしの内に 生きておられるのです。わたしが 今、肉において生きているのは、わ たしを愛し、わたしのために身を献 げられた神の子に対する信仰による ものです。| [19] この一致の仕方 は各人各様です。「天国の諸聖人 が、それぞれ独特の個性を備えてい るように、あなたたちもそれぞれ異 なるはずである。と同時に、諸聖人 はみなキリストに同化したからこそ 聖人になったように、あなたたちも 万いに極めて

一致しているはずであ る。| [20]

今日の諸聖人の祝日は、キリスト信 者特有の素晴らしい一致と多様性を 教えてくれます。先日のドン・アル バロとパウロ六世の列福式は、神の 栄光と教会の善のため、子どもたち を聖化される神の感嘆すべきみ業を 表しています。「福音の喜びは、何 によっても、まただれによっても、 奪われることはありません(ヨハネ 16,22参照)。この世界の悪や教会内 の悪を、献身や熱意を失う口実にす べきではありません。それを成長の ための挑戦とみなしましょう。信仰 の目で見れば、聖霊が暗闇の中に光 を放ち続けていることに気づくで しょう。(・・・) 水が葡萄酒に変わり うるものであることを少しずつ知る よう、毒麦の中で成長するよい麦を 見つけるよう迫るのです。第二バチ カン公会議から50年を経た今、現代 の悲惨さを嘆きつつ、素朴な楽観主 義になるには遠いとしても、現実的 な見方の徹底が、聖霊への信頼を弱

めたり寛大さを失ったりすることに つながってはなりません。」[21]

神の王国が心の奥深くに築かれている時、王であるキリストのミサのまで唱えられることが実現されます。個人的な使徒職によって、明らなと平和と正義の王国」としてキリストになることです。こうしてキリスト信者の心には正義と憐れみが芽生え、それが人々にも伝わって行き、で種々の社会組織の中に染み透るまで

になります。そして、神の子どもたちは-この賜を知っています-、創立者の言葉のように「平和と喜びの種まき人」になるのです。

明日は亡くなった信者の記念日です。煉獄の霊魂のためのお祈りを最まずまず聖祭において一、特にも最いる人のため寛大にといる人のため寛大にといる人のため寛大にといるといるといるといるといるという。娘たちをとれたかを思うではないない。娘たち息子たち、ごの東獄の霊魂でででは、全ての煉獄の霊魂

たちと「よき友人」として付き合っておられたのです。vita mutátur, non tólitur[22]主に従っている限り、死は滅びではなく、いのちへの門であることを納得しておられたことがよく分かりました。

喜びのうちに、今月3日にモスクワ へ行くことをお知らせします。今か

ら祈りにおいてこの旅行に付添って ください。それから8日には32人の 兄弟に叙階の秘蹟を授けます。聖人 になるよう彼等のために祈ってくだ さい。そして教会の全ての教導者、 教皇様から叙階されたばかりの人た ちに至る、一人ひとりを心から愛し ながら祈ってください。28日は、オ プス・デイが属人区として設置され た記念日です。オプス・デイの最終 的な法形態を特別に三位一体に感謝 しましょう。司祭と信徒からなる、 この「教会の一部」は、全ての教会 と人々に仕える私たちの仕事を非常 にたやすくしてくれます。

先月の特別司教会議の実りと私の 諸々の意向のためのお祈りを続けて ください。

心からの愛を込めて祝福を送りま す。

皆さんのパドレ

†ハビエル

ローマ、2014年11月1日

[1]マルコ16,15。

[2] 聖ホセマリア、『知識の香』 31番。

[3] 同上 181番。

[4]マタイ 6,10。

[5]ルカ17,21。

[6] ヨハネ 18,36 参照。

[7] ベネディクト16世、2008年6月15日説教。

[8]同上

[9] ピオ11世、1925年12月11日回 勅『クアス プリマス』参照。

- [10] ローマミサ典書、王であるキリストの祭日序唱。
- [11] ヨハネ 18,37。
- [12]同上38。
- [13] ヨハネ 14,6。
- [14] 聖ヨハネ・パウロ二世、1986 年5月18日回勅『聖霊一生命の与え 主』47番。
- [15] ヨハネ 16,8。
- [16] ヨハネ 3,17。
- [17] 聖ヨハネ・パウロ二世、1986 年5月18は回勅『聖霊一生命の与え 主』27番。
- [18] 聖ホセマリア、1972年11月11 日家族の集まりでのメモ。
- [19] ガラテヤ 2,20。

<u>[20]</u> 聖ホセマリア、『道』 947 番。

[21] 教皇フランシスコ、年月日使 途的勧告『福音の喜び』84番。

[22] ローマミサ典書、死者の序唱1。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/shuren-qu-chang-noshujian-2014nian-11yue/ (2025/12/10)